

新学習指導要領の改訂 本校方針

- 各教科等を学ぶ意義を共有しながら、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理する。
- 地域の材である「人・こと・物」を教育課程に生かすカリキュラム・マネジメントを実施する。
- 学校地域支援本部を活用する。

本校の特徴

- 平成 27・28 年度に東京都言語能力向上拠点校として生活科・総合的な学習の時間を通じた研究発表を行い、令和元・2 年度には「算数科」で主体的対話的授業実践の研究発表を実施した。令和3年度大田区コミュニティスクールモデル校として実施。

研究 構 想

〈教育目標〉

心ゆたかな子

すすんで学ぶ子

たくましい子

大田区教育委員会

〈未来ものづくり科の目標〉

創造的な見方・考え方を働かせ、ものづくりに取り組んだり、イノベーションを計画・実行したりすることを通して、よりよい未来社会の実現に資するものや仕組みを生み出す原動力となる創造的に考える資質・能力を育成することを目指す。

道塚小の「未来ものづくり科」とは

- 大田区の特徴を生かし、町工場などに従事する方や地域人材の協力を土台とした「ものづくり」につながる学習。
- 全学年で実施し、特に理科・社会・生活科・総合的な学習の時間でつくられる合科型のカリキュラム。

研究主題 新たな「知」を創造する児童の育成をめざして ～未来ものづくり科のためのカリキュラム開発～

【目指す児童像】

- 人に役立つという志をもち課題解決を楽しむ子
- 地域に愛着をもち、試行錯誤の「ものづくり」を楽しむ子
- 友達の考えのよさに気付き、協働してかたちにすることを楽しむ子

【カリキュラム内容の視点】

(1) 「未来ものづくり科」における3つの内容

① 科学・環境

主に理科で学んだ知識・技能を生かし、自らの発想で発展的に「ものづくり」に取り組む学習活動。

② 地域・伝統

地域のものづくりに従事している人との出会いを中心に実施する学習活動。主に生活科・総合的な学習の時間に位置付ける。

③ 幸せ

自分の身近な人に役立つ情報をまとめ、表現したりものづくりしたりする学習活動。主に生活科・総合的な学習の時間に位置付ける。

【カリキュラムの学び方の視点】

(2) 課題解決型による学習方法

- ① 手作業で「もの」をつくる活動においては、自らの発想を計画書として作成し、STEAM教育の視点で思考、表現させ協働的に制作する。
- ② 「人」と出会いを通して、十分な調査活動を行い、課題や発信内容を極めて表現活動する。
- ③ 単元を通して、全学年ともに身に付けるべき資質・能力が高まったか振り返りの活動を重視し、実社会に対して子どもなりの意見を発信できる単元の終末を工夫する。

(3) 「未来ものづくり科」を学ぶことを通して、地域の一員として地域の宝から、新たな「知」をつくり、地域社会に必要な新たな「知」を発信することが可能になる。社会とつながる学校になる。

補 完

「道塚小ものづくりミッケマップ」「道塚学校地域支援本部」「大田区ものづくり教育・学習フォーラム」